

第2回阿賀野川自然再生モニタリング検討会 議事要旨

開催日時： 平成27年3月17日（火）14時00分～16時00分

場 所： 阿賀野川河川事務所 2階会議室

【議事次第】

1. 開会
2. 議事
 - ・ 第1回検討会を踏まえた今後の対応（案）について
 - ・ 論瀨ワンド整備方針（案）
 - ・ 阿賀野川自然再生計画書（案）の更新について
 - ・ 早出川砂礫河原再生検討に関する中間報告について
3. 閉会

【議事】

（1）第1回検討会を踏まえた今後の対応（案）について

■焼山地区ワンドについて

- ①イトヨは、湧水の水温に誘われて入ってくるため、本川まで水温を保ったまま到達することが重要である。
- ②冬には魚は温かいほうへ向かうので、季節毎に、流量、魚類などの継続的なモニタリングが必要である。
- ③湧水量を確保するために、かつてのワンドの河床高や河床の変遷を調べることが重要である。
- ④ワンド奥の温度が本川出口まで来ないと魚を呼び込むことができない。本川まで湧水の水温が到達しているか確認する上で、UAV（無人ヘリ等）で定期的な撮影を行う必要がある。
- ⑤地下水の流れを把握するために周辺の地下水位を調査したらどうか。

■高山地区ワンドについて

- ・ 工事の際には、水際の凹凸（アンジュレーション）を付けることが望ましい。

（2）論瀨ワンド整備方針（案）

- ①河床高の設定にあたっては、定期横断図の重ね合わせから地形の変遷を整理するとともに、地下水位の調査等をしてから決定した方がよい。
- ②魚類の観点からは、これまでに溜まった土砂を排除するだけでも効果がある。

(3) 阿賀野川自然再生計画書(案)の更新について

- ①国管理区間の上流側の津川で、特定外来生物のウチダザリガニが増えているとの情報があるため、阿賀野川でも外来生物の侵入に注意すべきである。
- ②植物では在来種が取り上げられるが、ムシトリナデシコなど河川では外来種が多い。今後監視していく必要がある。
- ③モニタリングの結果を住民に周知したり、また大学の授業としてモニタリングを取り入れれば河川に対する関心が深まると思う。
- ④ワンド再生事業について、住民への広報活動の一つとして、現地に再生目的や事業内容を知らせる看板を設置してはどうか。
- ⑤外来種の分布調査などについて、大学の実習と連携できればよい。
- ⑥川に行かない学生が多い。現場を知ることは重要である。植物、生物系以外の河川工学系の学生も対象としたらよい。

(4) 早出川砂礫河原再生について

- ・桑山大橋の右岸 2.6k 付近にワンドが出来ている。試験施工の検討にあたっては現地状況を確認しておくこと。

以上